

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

【問】市人権同和教育推進室（☎77・8842）



私は戦争を知らない

柳南中学校 3年
信國 寧句 さん

学校の授業で人権について考える機会がありました。このことをきっかけとして身近にある人権問題について、私は何日も考えていました。そして、まずは平和について深く考えることにしました。

私にとって平和とは、親と共にいて、安心して毎日学校へ行ける、友達と遊べる、大好きなものをたくさん食べられることです。こんな当たり前のように過ごしている毎日が、私にとっての「平和」です。

その一方で、テレビをつけるとうクライナやガザをはじめとする戦争のニュースが毎日たくさん流れています。最近、ニュースの数は少なくなりましたが、戦争自体は今でも、世界中で続いています。そんな時に、母が「戦争を知らない子ども達」とい

う歌を聞かせてくれました。私はその曲名も歌も聞いたことがありませんでした。その歌の歌詞の中に「戦争が終わって、僕らは生まれた。戦争を知らずに僕らは育った。大人になって歩き始める」とありました。

それを聞いた時に、次のように考えました。「私たちもこの歌詞の中の僕らと同じで戦争を知らない。しかし、今を生きている私たちが、もし、戦争を体験していたら、二度とあんな苦しみは嫌だ。飲み水は泥水、弟や妹が目の前で死んでいく姿を見たくない。平和を心の底から願う」と。

しかし、現実には世界のあちこちで、大切な人や当たり前の日常を奪う最大の人権侵害である戦争が起きています。そして、人間にはさまざまな「心」があります。「自分が一番、自分そ

えなければという心」があるからこそけんかをし、争い、その結果、国同士で戦争を起こしてしまうのではないだろうか。何かの本で、「平和を望むなら、まずは自分の心が平和であるべき。」と書いてあったのを今でも覚えています。

現在のような世界が続いていけば、私はいつしか人類は滅びるのではないかと、思っています。

言い過ぎだと思われるかもしれませんが、一人一人が変わりたいと思わなければ、この世界は変わりません。みんなが自分や周りの人の人権を大切にすることでそれが土台となり、平和な世界が築かれるのだと思います。人類は皆兄弟という言葉もあります。

「私が一番、僕が一番、自分さえよければ」と考える心はやめませんか。私はそ

んな心を持つ大人には絶対になりたくありません。うれしくて喜んでいいる人がいたら、一緒に喜び、悲しくて泣いている人がいたら、一緒に泣いてあげたい。もしかしたら、この世から戦争がなくなることはないかもしれませんが、でも私がこつやつて一歩を踏み出すことにより、友達に広がり、それがまた別の友達に広がっていく、一つでも多くの平和が生まれることを願っています。

【先生からの一言】

戦争は大切な人や当たり前の日常を奪う最大の人権侵害だと捉え、平和について考えを深めました。自分や周りの人の人権を守ることも、身近なことから始め、平和な世の中をつくっていく一員になることを願っています。

やながわ

広報

2025
7
No.452

広報やながわ 令和7年7月号 No.452



第10代横綱雲龍関生誕200年記念「柳川相撲フェス」満員御礼

6月8日、雲龍の郷で第10代横綱雲龍久吉関の生誕200年を記念して「柳川相撲フェス」が開催されました。芝田山親方（元横綱大乃国）によるトークショーや秀ノ山親方（元大関琴奨菊）による相撲教室、ちゃんこのふるまいなど会場は1000人が訪れるほどのにぎわいを見せました。

今月号の
Pick up

2-3 参議院議員選挙
4-5 春の叙勲、オスプレイ
8-9 ソーラーボート、白秋献詩

15 もちふみデビュー
16-17 まちかどレポート
18-24 お知らせ掲示板



市公式 LINE
友だち募集中



●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係（直通） ☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/> ●e-mail kouho@city.yanagawa.lg.jp

●発行日 令和7年7月1日
「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人が読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。